

目指す学校像	【かしこく】自ら考え正しく判断する児童が集う学校 【たくましく】健康でたくましい児童が集う学校	【やさしく】やさしさと思いやりのある児童が集う学校
--------	--	---------------------------

重点目標	1 個別最適化を念頭に取り組む確かな学力の育成と、本校のSDG s 教育の推進 2 リフレッシュ工事期間において取り組む「心と体を育む教育活動」の工夫 3 大戸小コミュニティ・スクールの理念の共有と、地域とともにある学校づくりの推進 4 エバを中心としたICT機器活用実践の推進と、キャリア段階を踏まえた教師力の伸長
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均を上回り、良好な結果といえる。さいたま市の平均と比較しても国語・算数ともに本校が上回っている。 ○日頃の学習態度を見ると、真面目な取組の児童が多い。 ○各学級に、集団での学習に難しさをかかええた児童が在籍している。 (課題) ○解答にあたり国語の「無答率」が僅かに高い。 ○個別最適化した学習の提供とSDG sの取組。	・個別最適化を目指した授業改善 ・本校の実態や発達段階に適したSDGs教育の実践	①本校児童の課題の一つである「教と計算」の習熟は、ドリルパーク等の利用による個別最適化された学習を行う。 ②個別学習が学習効果を期待できる児童に対し、ICTを活用したスタディサプリの学習を継続する。	①全国調査の結果をもとに児童が自己の弱点を意識した学習感想が書けたか。担任が解説授業を1時間実施したか。 ②スタディサプリを活用し、教師支援のもと、児童が各自の課題を解決する学びができたか。	①学習状況調査において無答率が1%減少したか。 ②本校独自の体験型SDG s学習の実践が各学年1つ以上行えたか。			
2	(現状) ○現在令和8年度完成を目指したリフレッシュ工事期間中であり、年度途中での教室移動や校庭の利用制限、騒音・振動が常時ある。 ○登下校の見守りは、保護者、自治会をはじめとするボランティアの方々等の協力が充実している地域である。 (課題) ○様々なストレスが、児童を取り巻いている事に留意し、家庭や地域との連携、関係諸機関との連携に努め、教育相談・生徒指導を組織的に支援する。 ○工事を含めた施設設備の安全点検を教職員が徹底するとともに、児童にも危機回避能力をつける指導をすることが引き続き求められる。	・リフレッシュ工事期間に日々変わる利用可能な教育環境を踏まえた安全・安心な教育活動の推進 ・個に応じた教育相談、生徒指導体制の充実と関係諸機関との連携	①管理棟2階、南校舎1階が利用できない時期においても安全に学習が進むように、大戸ルールの徹底を図るとともに、登下校時の指導により自ら危機管理のできる児童を育成する。 ②学校地域連携コーディネーターや管理職が地域諸団体と良好な関係を持ち、児童の教育活動にあたる。	①学校自己評価において、安全に関連する教職員のアンケート結果が、85%以上肯定的になったか。 ②登下校指導や地域の安全に関する活動に、職員が少なくとも年間1度は参加し、協働できたか。	①毎月実施する生徒指導教育相談の部会において情報交換が適切に行われ、指導後の見守りまで完遂したかどうか ②関係諸機関との連携が、児童、保護者のためにタイミングを逸することなく行われたか。			
3	(現状) ○学校運営協議会は、実施2年目を迎え、目標について熟識し、地域一体で児童生徒の育成にあたる方針の周知を進める段階である。 ○アフターコロナとなり、地域の活動の多くが再開される中、児童のために持続可能な学校のかかわりを検討する時期である。 ○地域コーディネーターが中心となり、地域とともにある学校としての広報活動や調整を進めている。 (課題) ○アンケートの結果「あいさつ」について地域の方からの評価が低い点を今年度改善する。 ○学校運営協議会での熟議を通して、「求められる児童像」の明確化とその実現に向けた具体的方策を定め、地域、保護者に周知する。	・挨拶ができることよきことよきに気付き、校外でも挨拶のできるような児童を育成する取組。 ・学校、保護者、地域が一体となって児童の育成に取り組むための指針をコミスクで共有化するための取組	①管理職や教員が朝の登校時に昇降口や通学路に立ち、あいさつを励行する。TPOに合わせた挨拶のできる児童を目指す。 ②本校HP内の充実を図り、平均週1回ペースで更新をすることで、関心を持ってもらう。 ③学校運営協議会をスムーズに開催し、そこで目指す児童像について熟議を行う。結果は学校HPや学校だよりで発信する。 ④策定したプランや承認されたグランドデザインに基づき、具体方策を定める。	①児童会を中心に、本校の課題である「学校外でのあいさつ」を励行し、登下校の安全確認や外部の方との関係構築も含め「あいさつ」が出来たか。 ②学校評価のアンケートであいさつに関する項目で85%の肯定的回答を得られたか。	①学校評価に係る「児童」「保護者」「教職員」アンケートで、児童の成長を感じられる項目において、5ポイント以上の改善成果がえられたか。 ②年3回の学校運営協議会が計画通り開催され、何らかの形でその内容を広報できたか。			
4	(現状) ○タブレットやICT機器を用いた授業について、エバンジェリストや情報主任を中心に研修してきた。 ○5、6年生の教科担任制の指定校として、研究と情報提供に努めてきた。 ○キャリアIの教職員に校内研修会を実施した。 (課題) ○教科担任制を生かして、次年度も使えるシラバスを作成すること。 ○2年～6年でスタディサプリを導入し、家庭でも効果的に使えるように教職員の研修会を継続する。 ○ICT機器の利用頻度が低いと感じる児童が多い ○児童用タブレットの修理期間が長い。 ○教職員の後任を育て、継承する。	・スタディサプリの活用をはかる研修会の定期的な実施 ・キャリアIの教職員に自主的な研修を促し、キャリアIIIの教職員が参加することで教師力の継承を図る	①スタディサプリやその他のアプリの導入・活用をするための校内研修をエバを中心に月1回のペースで実施する。 ②教科担任制の指定校として、シラバスの作成に着手し、中央区の各学校に情報提供をする。	①全ての教職員がスタディサプリの機能を理解し、児童の個別最適な学習のツールとして日常的にタブレットを活用するようになったか。 ②年度末の中央区校長会において、教科担任制の本校の今年度の取組みのまとめを情報提供できたか	①キャリアIの教職員の自己評価シートにおいて、「学級づくり」や「学習指導」の項目で教職員自身が成長したという自己評価が、記述内容に表れたか。 ②ICT機器の利用頻度について昨年度比150%を達成したか			